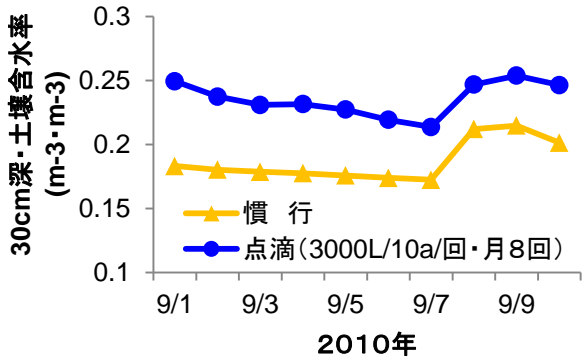


幼木茶園における点滴施肥による 早期成園化技術の確立

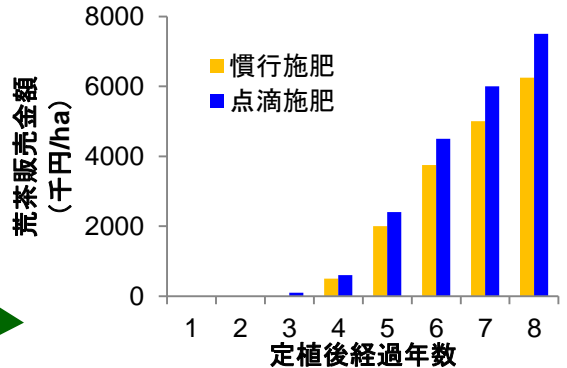
(農林センター 茶業研究所)

慣行施肥法と比べて、年間窒素施肥量を4割削減しても、定植2~3年目の生育量が増加する幼木期の点滴施肥法を確立しました。

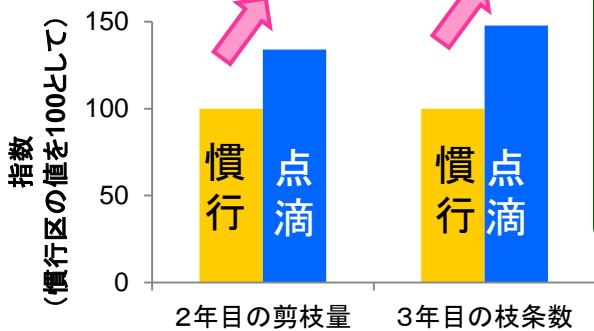
幼木茶園の早期成園化のための点滴施肥法



○夏期の干ばつ時にも点滴施肥で土壌水分の維持が可能
○慣行施肥法と比べて生育が3割以上増加



育成期間中の収入比較
(点滴施肥で慣行と比べて収量が2割増加した場合)
※収量×歩留り0.2×2500円/荒茶kg



育成期間が1年以上短縮でき、
定植後8年間で、
○収入が3600千円/ha以上増加
○設備投資が回収可能

※点滴システム導入により増加する、定植後8年間の施肥に係る費用
タンク移動式点滴施肥システム減価償却費
- 点滴施肥導入による肥料費削減額
= (630千円×8年) - 1,960千円 = 3,080千円

試験結果をもとに、早期成園化のための点滴施肥法をマニュアル化

- ・育成期間が1年以上短縮でき、定植後8年間の収入が3,600千円/ha増加が見込めます。
- ・施用回数、液肥量が少なく省力であるため、水源が近隣になくても取り組みやすい技術です。